

大門坂

1月号 月田小学校だより

平成31年1月7日(月) 校長 小林幸雄

習慣が変われば人生が変わる

論語の一節です。

子曰わく、「性相近し、習相遠し。」

性とは天性、生まれながらの才能です。「相近し」とは、ほとんど差はないということ。つまり「性相近し」とは、「生まれたときは誰でもほとんど同じようなものがある」という意味です。

習とは習慣を意味します。「習相遠し」とは、習慣の善悪によって大きな差が出てしまうという教えです。

iPS細胞で、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授も、先の論語に相通じることを言われています。

習慣が変われば、性格が変わる。

性格が変われば、行動が変わる。

行動が変われば、運が変わる。

運が変われば、人生が変わる。

それだけ良い習慣というものは、ものすごく大事である。 「生き方入門」(致知出版) 125p

山中教授の言葉を借りれば、「習慣が変われば人生が変わる」とも言えます。人生における成功者の言われる言葉だけに重みがあります。

新しい年の始まりです。今年も、「早起き・早



<5年生 電気自動車体験学習>

寝・朝ごはん」の良い習慣で、子どもたちの未来を明るくものにしたいものです。

ノーベル賞受賞に思う

昨年12月10日、本庶佑さんがノーベル生理学・医学賞を受賞されました。日本人として26人目の快挙です。

国別ノーベル賞受賞ランキングで見れば、日本は6位です。1位はアメリカ(271人)、2位はイギリス(87人)、3位はドイツ(82人)…と続きます。アメリカやイギリスは多民族国家です。

では、民族の中で一番ノーベル賞を受賞している民族は、どの民族でしょうか。

皆さんご存知のように、ユダヤ人です。これまで個人の実績者が908人、その2割はユダヤ人と言われています。ユダヤ人は、世界に約1300万人、東京都に匹敵する人口です。世界の人口比わずか0.25%、日本の10分の1です。ノーベル賞が一つもとれなくてもおかしくはありません。

しかも、ユダヤ人ほど世界の中で抜きん出て、芸術、学問などあらゆる分野で成功を収めている民族は、他にはいません。

なぜ、ユダヤ人はこれほど優秀なのでしょう。

DNAの違い?と思われる方もいるでしょうが、これは間違いです。なぜなら約2000年前、ユダヤ人の国はローマ軍に包囲され、滅びます。その後、世界に離散します。そして、その定着地で異民族と混血を重ねて行きます。それ故に、血によってユダヤ人になるのではなく、肌の色や骨格などとも関係がないのです。ユダヤ人とは、ユダヤ独特の思想や発想、つまり「ユダヤの文化」を受け継いできた人々をユダヤ人と呼ぶのです。

10年以上前、私はユダヤ人の優秀さに惹かれ、ユダヤについて、日本教育技術学会で授業をしたことがあります。

何か学ぶことがありはしないかという思いで

始めた教材研究でしたが、あれこれと文献を紐解き、調べて行くうちに…、その答えは、教育にあることが分かってきました。

ユダヤ人とは、昔から本の民といわれています。ユダヤ教は、祈る教えではなく、一人ひとりが学ぶ教えと言われるからです。子どもが7～8歳になると、必ず母親から尋ねられる謎なぞなぞがあります。

もし、坊やの住んでいる町が襲われて、身体一つで逃げなければならないときは、何を持って逃げたらよいかしら？

子どもはお金、ダイヤモンドなどを持って逃げると答えます。このようなとき、母親は、次のように語ります。

坊やそれは違うわ。持って逃げるのは教育よ。金やダイヤは奪われてしまうでしょ。でも、教育さえ残っていればまた一からやり直せるでしょ。

このようにユダヤ人が教育を重んじるエピソードには枚挙にいとまがありません。

例えば、義務教育の歴史です。アメリカ、イギリス、日本などは、140～150年ほど前から義務教育が始まりました。何とユダヤ人は、全ての男子に対し2100年も前から義務教育を始めているのです。驚異的です。

また、ユダヤ人ならば必ず言い聞かされる次のようなエピソードがあります。

紀元70年、ユダヤはローマ軍に包囲され、国家滅亡の時を迎えます。この時一人の賢人が立ち上がります。その名はラビ・ヨハナン。生き残るためにローマ軍のチツソ将軍に会いに行きます。

「チツソ将軍、あなたは間もなくローマ皇帝になられます。他のことはさておいて、たった一つだけお願いしたいことがあります…。」

この時、彼がお願いしたものは、「ユダヤ人のための小さな学校の建設」でした。予言通り、9年後、チツソ将軍はローマ皇帝になります。約束通り、「小さな学校を建てる」許可を与えるのです。

最後に、ユダヤ人の格言・諺を紹介しましょう。

○もし、本と服を汚したら、まず、「本」から拭きなさい。
○学んだことを復習するのは、覚えるためではない。何回も復習するうちに、「新しい発見」があるからだ。
○100回復習するのと、101回復習するのとでは、その間に「大きな差」がある。

素晴らしいユダヤの知恵です。ユダヤの人々がいかに教育を重んじてきたのか…。ことほどさように教育は、大切なのであります。

正月のお飾りづくり

昨年、12月14日（金）月田老人クラブの方17名のご指導により、5・6年生がお飾り作りをしました。



お飾りは、神社の鳥居のしめ縄と同じです。神聖で清らかな場所であることを示すものです。

もし、玄関にお飾りがなければ、「この家は清められていない。神聖でない！」と、せっかく玄関先まで来てくださった年神様が、くるりと背中を向けて立ち去ってしまいます。

昔の人々は、祖先の霊が田の神山の神となり、お正月には年神様として降りてくると考えました。

年神様は、子孫の繁栄を見守り、幸せを授けてくださるという有り難い神様です。

この日、子どもたちは手作りのお飾りを手に意気揚々と帰って行きました。きっと子どもたちの家々に年神様がきてくださったことでしょう。

老人クラブの皆様、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

